

第3回国連防災世界会議 先行イベント

JCC2015・内閣府・外務省 共催シンポジウム

- 日時：2014年12月5日（月）18:30~20:30
- 会場：東京・日比谷コンベンションホール
- 主催：JCC2015、内閣府、外務省
- 協賛：CWS Japan、ACT Alliance、UMCOR、日蓮宗あんのん基金
- 後援：第3回国連防災世界会議仙台開催実行委員会、防災からまちづくりを考える実行委員会

■実施背景・目的：

「第3回国連防災世界会議」は、今後の世界的な防災指針が策定される重要な会議であり、日本政府がホスト役となり、世界各国から参加する政府代表団・国際機関・民間企業・学識経験者・市民社会組織（CSO）、そして被災者自身が東日本大震災からの復興や防災に関する取り組みを学び合う場となる。この会議に向けて、日本・海外で緊急災害支援やボランティア等で活動する多様な主体が、東日本大震災での「自助・共助・公助」の経験を共有し、今後各地で予想される災害にどのように取り組めばよいのか、また「市民防災の力」について、パネリストと一緒に考えることを目的とした。

■内容：

- ・第3回国連防災世界会議とHFA2について
- ・『市民防災世界会議』開催について
- ・UNSIDR代表マーガレッタ・ワルストロームからのビデオメッセージ上映
- ・シンポジウム「マルチセクターの防災」

■参加：58 団体 121 名

■当日の様子：



冒頭、JCC2015 事務局長の堀内葵（国際協力 NGO センター）より本企画の趣旨を紹介した。次に、JCC2015 事務局の小美野剛氏（CWS Japan 事務局長）から第3回国連防災世界会議、「市民防災世界会議」の紹介、HFA2の策定ポイントの解説を行った。前半の締めくくりとして、UNSIDR 代表のマーガレッタ・ワルストローム氏からのビデオメッセージを上映した。

後半のシンポジウムでは、山本隆（ピースポート災害ボランティアセンター代表理事）のモデレートにより、田村政美氏（外務省）がHFA2の交渉について、齋藤馨氏（内閣府）が防災世界会議の準備状況について報告した。JCC2015 共同代表の堂本暁子（JWNDRR 代表）からは災害における女性の参画について、奥村早苗氏（ピースポート災害ボランティアセンター石巻事務所）からは緊急災害支援の経験について、紅邑晶子氏（せんだい・みやぎ NPO センター代表理事）からはマルチセクター連携の経験が語られた。シンポジウムを通じて会場から活発な意見が投げかけられ、また Ustream と twitter（ハッシュタグ：[#マルチ防災](#)）を利用した質疑では多くの質問が寄せられた。

最後に、大橋正明（JCC2015 共同代表）の閉会挨拶では、第3回国連防災世界会議への市民社会のさらなる参加を呼び掛けた。